

9th International Symposium on the Biology of Vertebrate Sex Determination 2023 への参加記録

分子生命史研究室 D4

丹羽 大樹

期間: 2023 年 4 月 16 日~4 月 23 日

開催地: アメリカ合衆国、ハワイ州、ハワイ島コナ

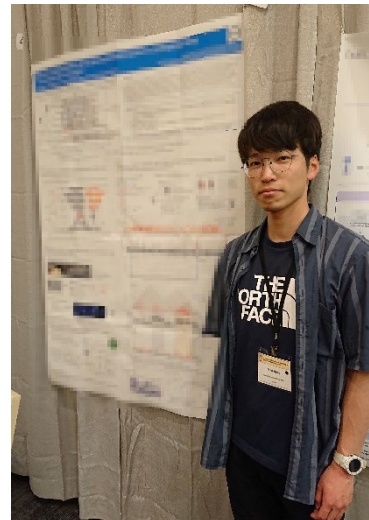
この度遺伝学専攻による海外渡航旅費支援を受けて上記シンポジウムに参加いたしましたので、その報告を記したいと思います。報告に先立ってご支援いただきました遺伝学専攻に感謝申し上げます。

本会は三年に一度、ハワイ島コナの King Kamehameha Hotel にて開催されるもので、その名の通り脊椎動物の性決定というニッチなテーマをもって行われる小規模な会です。今回の目的は、当研究室に三年次編入後に始めた軟骨魚類の性決定遺伝子に関するプロジェクトの一年分の進捗をポスター発表にて紹介すること、そしてこの分野にどんな研究者がいて、どのようなプロジェクトを進めようとしているのかを把握することでした。本当ならもう少しプロジェクトが進んでから紹介したかったのですが、三年に一度という都合上、今回は卒業後になってしまうため、今回の発表と相成りました。

今回の全参加者はおよそ 150 名とやはり小規模で、各演題（皆さんちょっとしたジョークをさしはさむので）笑いが絶えず、終始和やかな雰囲気でした。また小規模ゆえに一会議室で行われ、並行する口頭発表はなく、全演題を聴けるというのが本会の魅力のひとつだと思います。参加前には本会のことを、脊椎動物における性決定の「多様性」に関する会なのだと思っていましたが、意外にも医学分野からの参加者が多く性分化疾患の分子メカニズムを理解するという観点の演題が半分近くを占めていた印象を受けました。そういう背景もあって、ヒトやマウスを対象にした研究は性決定というよりも生殖腺という組織の発生、特に性分化疾患を起点にしたステロイド産生細胞の発生や生殖器の発生、性分化にフォーカスした発表が多く、これはなかなか普段追い切れていないところがあって、聴いて興味深かったです。「非哺乳類」的な発表も興味深いものが多く、メダカやゼブラフィッシュ、ツメガエル、ニワトリなどモデル生物としての歴史がそれなりに長いはずの生物種で



会場の King Kamehameha Hotel



発表中の筆者

も、研究者の数のせいなのか哺乳類ほどはまだ性決定・性分化の分子メカニズムや生殖腺という組織の発生の全体像がはっきりとは見えていない印象を受けました。



会場から望む海沿いのダウンタウン。
少し離れると住宅街が荒野しかない。

会全体のことに関しては、ハワイというロケーションは旅行としては素晴らしいのは自明ですが、現実問題として兎にも角にも物価が高くなかなか苦労させられることが多かったように思います。このシンポジウムの始まりの経緯がこのロケーションと強く結びついているとはいえ、ハワイ諸島の中でもオアフ島ではなくハワイ島、そのうえ主要都市のヒロでなくリゾート地であるコナが開催地のために宿(学会側で割引を設けていた会場のホテルでさえ高額)、食事、移動手段(ほぼ

タクシーしかない)とすべてが高額、不便で、その点は改善されてほしい点だと思いました。これはオーガナイザーの方々も同意見だったようで、今後の開催について話し合う場においては開催地をハワイから変えたい、変えてほしいという意見が開催、参加両サイドからそれなりに出ていたように思いました。

ともあれ、やはり性決定という現象に対して惹かれる人々の集うこの会で、また発表できるように研究を進めていきたいと思います。



空港までの道のり。ハワイ島西側は東からの貿易風と 4000m 級山岳のマウナロア山によって乾燥し、このような荒涼とした溶岩台地が広がる。会場から空港まで 10km、この間のバスはほぼない。Uber で呼んだタクシーが唯一の手段であった。奥に見えるのは会場から毎日見上げたコナコーヒーの産地、フアラライ山。